

平成 28 年度 双葉町復興町民委員会
第 3 回 人の復興部会 報告書 (1022)

- 日時 平成 28 年 10 月 11 日 (火) 13 時 00 分から 16 時 10 分
 - 場所 双葉町役場いわき事務所 2 階大会議室
 - 参加者 別紙座席表のとおり
 - テーマ ①必要な支援策 (全員)
②立入規制等に関する必要な見直し (グループ A)
③風評被害対策 (グループ B)
④自由なテーマとワークショップの感想 (全員)
- 「帰還困難区域の取扱いに関する考え方」(資料 4-1)、「帰還困難区域に関する政府方針」(資料 4-2)、及び「帰還に向けた双葉町の取組方針について (素案)」(資料 5) に対する意見交換

- ・復興拠点 (資料 7) において、帰還してもよいと考えられる線量については、どれくらいの数値を目標とするのか。
⇒空間線量 3.8 マイクロシーベルト/h 以下であることが国の基準となっている。しかし、3.8 マイクロシーベルト/h は高いと感じる人が多いのではないかと考えているが具体的な数値は現在ない。なお、資料 7 に記載しているとおり双葉駅周辺で、自然減により線量がかなり低下している状況といえる。(事務局)
- ・復興拠点はきれいに整備され除染もされ、そして外部からも人が来ることができる状況となる。しかし、そこだけがきれいになっても、その周りはどうなるのか。復興拠点だけがきれいでも、まわりの場所は朽ちてしまった建物がある状態で、外部から人が実際に来てくれるのか不安だ。また、燃料デブリの問題はどうなるのか。この問題が解決されなければ、本当の安心安全にはならない。
⇒復興拠点は狭い範囲ではなく、ある程度広いまとまりをもった場所である必要があると考えている。一方で、町内全域を拠点としてしまうと、分散しすぎて整備につながらないと考えている。適度な広さとなる区域で整備を実施していく必要がある。また、燃料デブリについては、専門的な知識が必要となるため、有識者会議に福島大学の放射線専門の先生に加わっていただき、廃炉や中間貯蔵施設の安全性について意見をいただく予定である。(事務局)
- ・双葉に帰ると、道路はきれいになっているが、バスの中から道路を少し外れたところを見ると、草が茂っている場所が見えたりと寂しい思いをする。外部から来た人には、なおさらそう見えると思う。対策をお願いしたい。

- ・ 5年後に産業がなければ町の復興はあり得ない。外国人は放射線に対するアレルギーが強い。震災後、呼びかけをしても本国から戻ってこない人もいる。外国企業誘致の対策も考えなければならず、外国企業との連携が大事になる。産業誘致については、双葉町は遅れている。早く進めなければならない。放射線に対して大丈夫だということを、いつ誰が示すべきなのか。

⇒町単独というよりは、国や県と連携した対策が必要と考えている。安全であるというイメージは大切である。今日のテーマでもあるが、帰還困難区域の見直しを行わないなかで、風評被害についてどう考えるか、本日議論をお願いしたい。(事務局)

- ・ 家屋の解体は、来年度から始まるのか。倒壊した家屋の解体が進むことは、除染につながると思う。家屋が倒壊した状態で除染するのではなく、家屋解体の承諾を得てから除染することになるのか。

⇒倒壊家屋の解体と除染は一体で進めていく必要がある。両竹地区ではようやく家屋解体が開始された。今年度秋ごろから駅西の除染が始まるため、環境省が家屋解体のアンケートを実施している。町内の家屋解体が除染と同時進行かどうか、ということだが、除染と同時に家屋解体も進めることになると思われる。そのためにも、家屋の罹災判定を早めに受けてもらう必要がある。(事務局)

- ・ 寒くなって草木も枯れる。帰りたくても草が茂っていると帰りたくないという声も聞く。除草については、見えるところは実施してほしい。そのほうが町民も帰りたくないという気持ちになる。

■ ワークショップ成果の発表

A チーム：羽山君子、岡本隆夫、大橋庸一、今泉春雄、中谷祥久



①必要な支援策

【発表の要点】

- ADR に被災者を入れてきめ細やかな対応を検討してほしい。
- 税・医療費減免を継続してほしい。
- フリーパスを身分証明書として作り、交通に幅広く利用できるようにしてほしい。友人と会うことを増加させることにも繋がる。
- 医療費減免の継続を行ってほしい。

【模造紙】

《賠償》

- ADR に被災者代表者を入れてきめ細かい支援を検討してほしい。

《税の減免》

- 税の減免の継続。
- 避難先と双葉町とダブルで税金がかかるかもしれないので減免してほしい（固定資産税、住民税など）。

《交通》

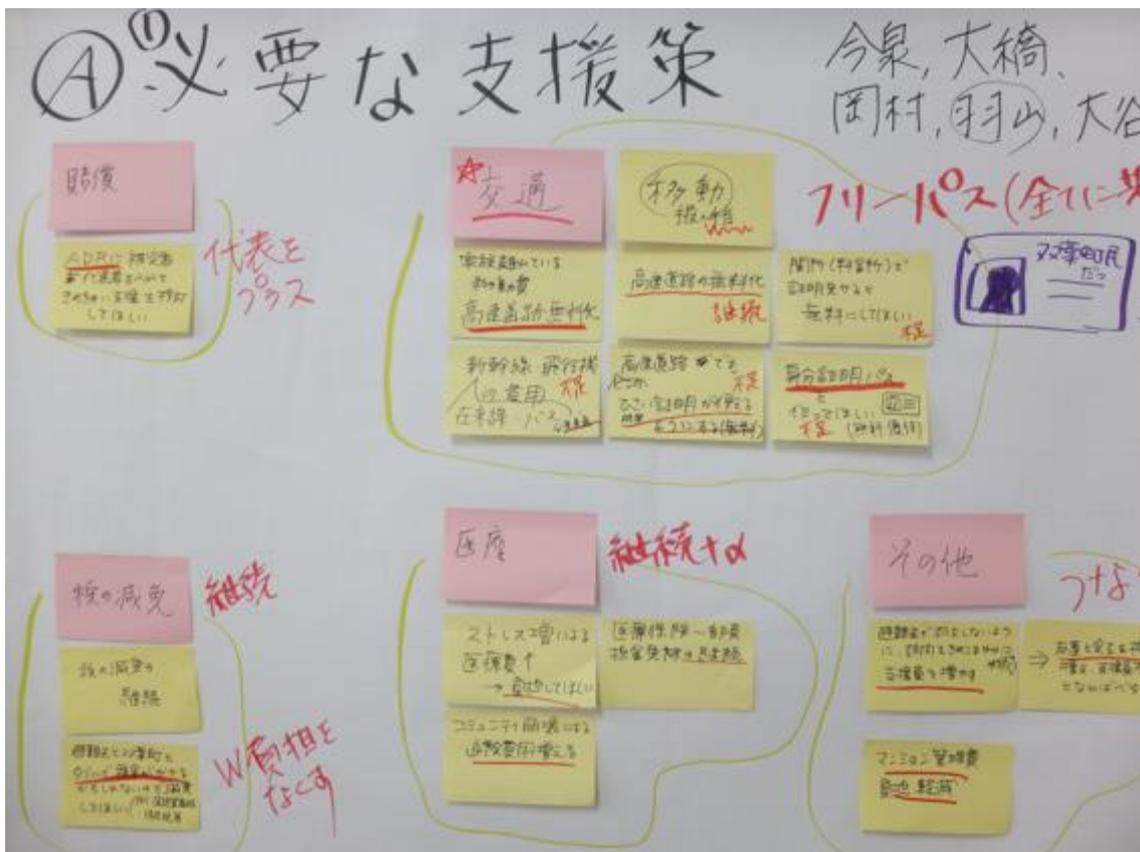
- 移動手段と手当。
- 家族が離れているため移動費がかかるので高速道路無料化を。
- 高速道路の無料の継続。
- どの高速道路でも被災証明が使えるようにする。
- 料金所で証明見せると無料にしてほしい。
- 身分証明パスを作ってほしい。
- 新幹線、飛行機、在来線、バスの費用。

《医療》

- ストレス増による医療費が増加しているの、負担してほしい。
- 医療保険の一部負担金免除の継続。
- コミュニティ崩壊による通院費用が増える。

《その他》

- 避難先で孤立しないように訪問をきめこまやかに対応するため、支援員を増やす。
- 友達と会える機会が増えて、支援員不要となればベターである。
- マンション管理費の負担を軽減してほしい。



②立入規制等に関する必要な見直し

【発表の要点】

- 立ち入り規制については、当日受付もしてほしい。
- 手続きも面倒なので、共通の身分証明書を提示することで簡素化してほしい。
- 立ち入り回数の制限撤廃もしてほしい。
- 立ち入り時間についても規制を撤廃してほしい。
- 立ち入りする楽しみとして、季節の花を楽しむことができるようにしてほしい。
- 草刈をしないとタバコのポイ捨てで火事になってしまうので、除草してほしい。
- 防犯カメラを増やしてほしい。
- イノシシ、スズメバチ（墓周り）がいるので獣害対策をしてほしい。
- 墓参りの線香は火事になる危険があるので、火を消してほしい。

【模造紙】

《立ち入りの際》

- すぐに立ち入りできるようにしてほしい。現状は前日予約であるが、即日対応をお願いしたい。
- 立ち入り手続きを簡素化してほしい。
- 交通や立ち入り時に提示する身分証明書を共通のものにしてほしい。
- 入域可能な時間を季節で変えてもよい。夏は17時までなど。
- 立ち入り回数の制限を撤廃してほしい。
- 現在立ち入りは休日が多いが、管理会社が休みであるなど、日程設定が厳しく不自由である。
- 水飲み場、交流の場を一時帰宅者用につくってほしい。
- 季節の花を楽しめるような環境整備をしてほしい。

《防犯》

- 煙草で火災になるので、草刈りをしてほしい。
- 監視カメラを増やしてほしい。

《獣害》

- 獣駆除を徹底してほしい（イノシシ、スズメバチ）。

《その他》

- 墓参の際の線香の火を消すこと。

Ⓐ 立入規制等に関する必要な見直し

今泉, 大橋, 岡村, 羽山, 大谷

立入の際 ~~いつでも立入OK~~

立入の際の手続きを簡便化してほしい

7-11パス

回数削減

立入回数削減

景観の見直し

立入回数削減

景観の見直し

防犯

夕方の火除草

獣害

イノシシ
スズメバチ
クマ

その他

乗車の際の安全確保

③自由なテーマ

【発表の要点】

- 盆踊りがきちんとした形で残してある地区はない。予算化して正式な映像として残してほしい。子どもたちに芸能を伝える仕組みがない。映像や音響で伝えられたら良い。
- 遠くに避難し定住する人、特に子どもは双葉町民意識が薄れていく。そういう子供たちに映像や音響を見せてあげるのはどうか。そうしないと、町の盆踊りがなくなってしまうという危機感がある。時間も我々は少なくなっている。子どもたちに残していかななくてはならない。
- 双葉を残すために、盆踊りの歌・踊り・笛をハワイへ伝承しに行った。その時の映像が出てくれば、双葉町民意識も高まるのではないか。ドキュメンタリーで、NHKで3月に放映される予定である。
- まちづくりは、復興拠点だけきれいにしても他が汚れていては、まちの再生はできない。いったん更地にしてゼロから作り上げるのが良いのではないか。中途半端ではいけない。
- 今何をしなくてはならないかを考えると、継続して元気にしていくことが大事だ。元気な人を交えてどうしたらよいか検討することが、大きなテーマになる。明日やろう、明後日やろうという問題ではない。相当期間をかけないといけない。色々な意見をまちづくりに取り入れたほうが良い。

【模造紙】

《芸能・文化の保存》

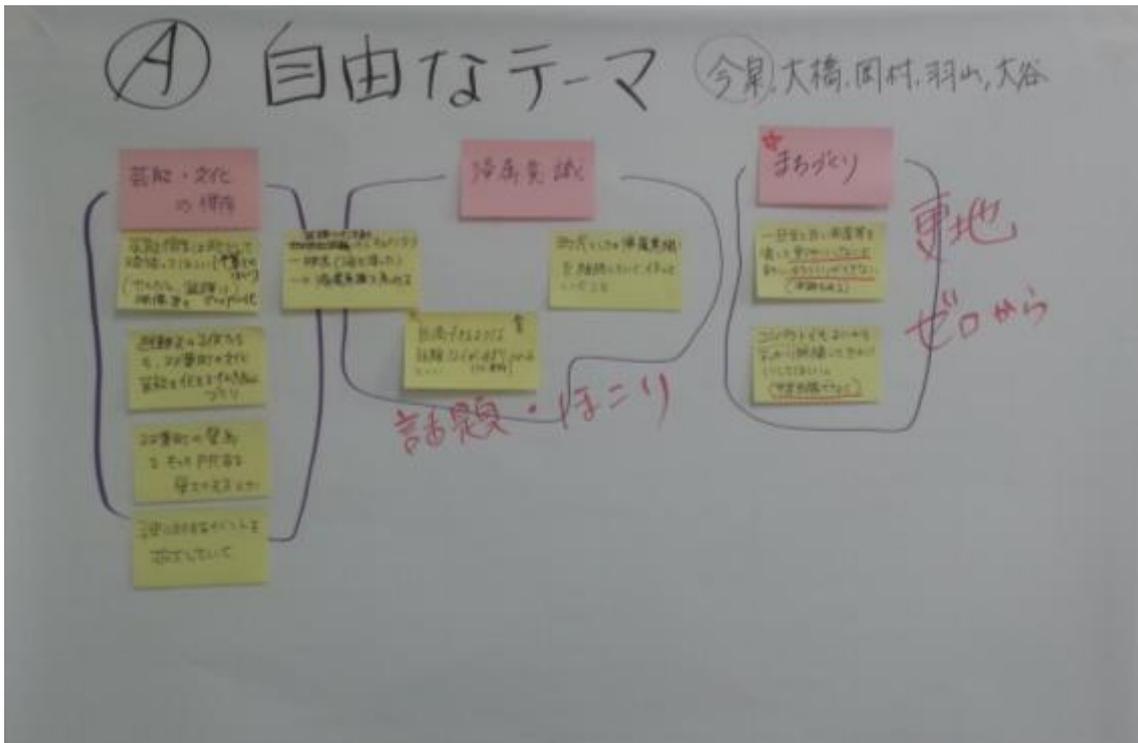
- 芸能保存は町としてがんばって予算を取ってほしい。
- せんだん、盆踊りの映像化やマニュアルづくり。
- 避難先の子供たちも、双葉町の芸能、文化を伝える仕組みづくり。
- 双葉町の壁画を東大の先生の力を借りてもっとPRする。
- 子どもに対するイベントを拡大していく。

《帰属意識》

- 盆踊りの活動のドキュメンタリー映画などが帰属意識を高める。
- 町民としての帰属意識を継続していく、作っていくこと。
- 自慢できるような話題などがTVや書物で紹介されるとよい。

《まちづくり》

- いったん古い家屋などを壊して更地にしないと、新しいまちづくりができない。風評もある。
- コンパクトでもよいから、中途半端ではなく、すっかり除染してきれいにしてほしい。



④ワークショップの感想

【発表の要点】

- もっともな細かい意見が出た。どう実現するかが重要だ。有意義だった。
- 避難中にたまっていた目のうろこがとれた。
- 自由なテーマがあってよかった。芸能のことが話せた。
- 「フリーパス」を提案できたことが、今日の成果だった。

B チーム：高野泉、高野光夫、山本眞理子、玉野憲一、山根光保子



①必要な支援策

【発表の要点】

- 今後も継続してほしいものは、教育であり、中学・町立学校・きずなづくりの補助である。
- 医療費の負担免除の延長、高速道路の無料化の延長の意見も出た。遊びに行く時も高速道路の無料措置を使っているが、それがあつて周リから「ただでいいね」と言われるので、遊びでは使えないようにした方が良くはないか。
- 自立支援について、金銭面の支援は、店の立ち上げなどをやりたい人に、必要な支援を行うのが良いと思う。
- 高齢者の移動支援として、タクシー券、少人数での乗り合いタクシーなどが必要である。
- 温泉利用のための補助金があるとよい。
- 高齢者の生活支援として、独居世代の見守り、生きがいつくりの支援が必要である。
- 町民同士の交流機会を作り、補助金・支援スタッフを充実してほしい。
- 避難先地域の情報、サービスについて、いわき市民と同じ情報を手に入れたい。

【模造紙】

《教育》

- 就学支援
- 町立学校立ち上げ及び運営に関わる補助。
- 絆づくりのための補助（あつまれふたばっこ）。

《医療》

- 医療費の負担免除延長。

《自立支援》

- 自立の援助。
- 経済的自立の支援。お店や事業をする際の補助金、助成金、公的支援など。
- 全員均等に支援しなくても、やりたい人に必要な支援を。

《地域の交通手段》

- 高齢者の移動支援。
- 高齢者のための個人タクシーの利用。
- 少人数で乗り合いで移動できるようなタクシーの使い方。
- 温泉、タクシーなど利用する際の補助券のようなもの。

《高齢者の生活支援》

- 高齢者、独居の見守り。
- 土地の確保のサポート。
- 生きがいづくりサポート。畑仕事、農業。
- 自宅への安否確認の訪問。

《町民同士の交流》

- 補助金、スタッフの充実。
- 町民同士の交流機会（同世代、多世代）。
- 温泉、ホテルの料金の援助。

《避難先自治体の情報・サービス》

- いわき市からの情報も届けてほしい。
- 避難先のサービスを住民と同じように受けられる。

《高速道路無料化》

- 高速道路無料は、一時立ち入りや仕事などに制限する。
- 高速道路の無料。
- 高速道路の無料を延長。

②風評被害対策

【発表の要旨】

- 賠償金をもらっている人は、そのお金でいろいろ買っていると思われる。精神的な被害を受けていることをアピールすることが必要である。
- マスコミの情報で不安になる。正しい情報が必要である。
- 食べ物は、イメージを向上させることが大事である。福島のを応援してくれる人をクローズアップしてはどうか。
- 食べ物への放射線の影響について、専門的・客観的な情報を届ける必要がある。

【模造紙】

《賠償金を受けていることへの周囲の反応》

- 賠償金をもらっていることに対する風評被害。
- お金にまつわることの伝えられ方によって、とらえ方が違ってくる。
- 保育園でも何か買ったりすると税金で買っているんじゃないかといわれる。
- お金に代えられないものを失っているということを、きちんと伝えていくべき。
- 自主避難の人にも、それぞれの背景、事情があることを報道してほしい。

《マスコミ・ネットが不安をあおる》

- マスコミ、ネット上の話題を見聞きして、不安をあおられる。
- 甲状腺への影響が、TVなどで取り上げられていることを、どう理解したらよいのか。
- 自主避難を県外にしている人がいることで、避難先の人に福島は危ないと思われる。
- 地道に正しい情報を出す。

《食べ物の不安》

- 特に食べ物に対するイメージ「食糧をもっていったほうがよい」と言われることも。
- 川崎市の姉に果物を贈った時に、大丈夫かと聞かれた（3、4年前）。今はそういうコメントはなくなった。時間が解決??
- 「福島のを」を応援してくれる人も多い。そういう側面をもっとクローズアップしてほしい。
- 食べ物を自分は食べるけど、孫には食べさせない。

《情報が信用できない》

- 様々な情報があるなか、自分で確信できないことは口に出せない。
- 作物への放射能の影響、具体的ではないが、言われているらしい。思い込みがある。
- 県内の人と県外の人との温度差が感じられた。情報が増えて温度差は改善されつつある。
- 専門的、客観的な情報を届けることが重要である。

決算報告について

B

山本
高野
高野
山根

不安

貸借金を
貸しているところの
利用の状況

マスコミネット
が不安を
あおむ

食パ物の
不安

情報が
信用できぬ

貸借金をもらって
使っている
返済状況

マスコミの取材
と関係して
不安をあおる

食パ物の
信用力低下
信頼性低下

情報の信頼性
低下
信用力低下

返済
遅延
返済遅延
返済遅延

マスコミの取材
と関係して
不安をあおる

食パ物の
信用力低下
信頼性低下

食パ物の
信用力低下
信頼性低下

貸借金の
返済遅延
返済遅延

マスコミの取材
と関係して
不安をあおる

食パ物の
信用力低下
信頼性低下

食パ物の
信用力低下
信頼性低下

対策

貸借金の
返済遅延
返済遅延

マスコミの取材
と関係して
不安をあおる

食パ物の
信用力低下
信頼性低下

食パ物の
信用力低下
信頼性低下

貸借金の
返済遅延
返済遅延

マスコミの取材
と関係して
不安をあおる

食パ物の
信用力低下
信頼性低下

食パ物の
信用力低下
信頼性低下

③自由なテーマ

【発表の要点】

- 幼稚園、小・中学校では、同じ場所で上級生と会う機会が多い。上級生の姿を見てよいこと・悪いことを学んでいく。英語教育にしてもそうだが、特色ある学校になってきている。
- 教育長は月 1 回メッセージを発信して、学校の現状・考えを掲載しているので、見てほしい。
- 次世代に対して、孫に双葉町の話はどう伝えていくか。言ってほしいという意見もある。
- せんだん祭りがあるが、素晴らしい演奏を行うので見に来てほしい。
- 双葉町の子供たちは全国にバラバラになっている。どう伝えていくかが課題だ。親がどういう役割を果たしていけばよいのか。現状と、こうなるということ、親が伝えていくことが課題だ。
- 双葉町民の歌があるが、それは残しながら、よさこい、ダンスバージョンなど、色々なバージョンの曲を作るのはどうか。

【模造紙】

《教育》

- 幼小中が一緒に、年上が年下の面倒を見る。英語教育に特色を。
- HP にて教育長さんのメッセージ発信。
- 孫に双葉の話はどう伝えていくか。いずれは来て、双葉を見てほしい。
- せんだん祭りで太鼓を演奏する予定だ。これも小中いっしょにやるのがよい。
- 双葉以外で生まれた子供たちに、双葉をどう伝えるか。
- 親がどのような役割を果たせるか。
- 「集まれ双葉っ子」なども参加する子供たちが減っている。
- 校歌を残していきたい。
- 町民の歌もアレンジする。
- 町民の歌をよさこいバージョンにする。

自由なテーマ

グループ B

五野
山本
高野 (光)
高野 (奈)
山根

教育

現状

文世代

教育の現状
教育の現状
教育の現状
教育の現状
教育の現状
教育の現状

課題

多様な視点

課題の現状
課題の現状
課題の現状
課題の現状
課題の現状
課題の現状

会議の進め方

多様な視点

プラス思考

人間的

改善点

改善点

改善点

会議の進め方
会議の進め方
会議の進め方
会議の進め方
会議の進め方
会議の進め方

多様な視点
多様な視点
多様な視点
多様な視点
多様な視点
多様な視点

人間的
人間的
人間的
人間的
人間的
人間的

改善点
改善点
改善点
改善点
改善点
改善点

町の資料の改善点

町の資料の改善点
町の資料の改善点
町の資料の改善点
町の資料の改善点
町の資料の改善点
町の資料の改善点

④ワークショップの感想

【発表の要点】

- 雰囲気が良い、プラス思考になった。
- 人の意見を学ぶことができた。
- スタッフが躊躇している参加者にアドバイスをくれて、よい会議となった。
- 話をする人とならない人が分かれている。
- テーブルをシャッフルしても同じ話になる。しかし、同じ話をして確認しあうことも必要だ。
- ワorkshop方式の方が、一人ひとり話をする機会がある。

【模造紙】

《会議の進め方について》

◎雰囲気がよい

- 話ができる雰囲気をうまく作ってもらえた。
- 雰囲気がよかった。
- 双葉の人っていいな（ワールドカフェで特に感じた）。
- 自由な雰囲気がよかった。
- 堅いイメージがなかった。
- ラウンドテーブル形式に慣れていなかったが、このスタイルがよかった。
- 形式がとてもよかった。テーブルによって違う考えを知ることができた。

◎プラス思考

- 自分の考えていることをうまく整理することができた。
- 新しい双葉を作れるのではないか、可能性を感じられた。
- 人が集まって、一歩ずつ前に進んでいこうと思えることが復興への足掛かりになる。

◎人のつながり

- 双葉のこれから、原発のこれからについて、他の人の考えも聞き、この先の方向性が少しは見えてきた。
- 新しい人とのつながりができた。

《ワールドカフェの改善点》

- ワールドカフェはしゃべる人としゃべらない人に分かっていた。
- ワールドカフェに比べてワークショップの方が一人ひとり話す機会をもらえるのがよいのでは。
- 皆が自由にしゃべれるのはよかったが、テーブル移動やトピックの変更などで結局おなじことを話すことも。

《町の資料の改善点》

- 英語、カタカナが多用されて、辞書持ち込んでいた。
- 町の説明がわかりにくかった。

⑤その他

- 時間がない。提言されたことを町は実行してほしい。
- 双葉町の歌を知っている人が少ない。町長が先頭で歌う。役場でも暗唱できる人はいないのではないかと。町民の歌も教えなさいといけない。

■ 講評

1. 福島大学 間野特任教授

- 双葉町の現場の町民の意見・言葉が聞けて良かった。
- 帰還困難区域に対する政府方針では、5年後には避難指示を解除することを示唆している。そこに住めるようになるという方針が出された。それに対して、どうしたらよいか考えなければならないということは、具体的な段階に入ったということだ。
- これまで出てきた意見を、どのように避難指示解除に向けた具体的な施策に繋げていくのかが大事である。
- 避難生活を支援する対策は不足している。避難指示を解除するということは、双葉町内に居住することが可能な人がいないといけない。すぐに帰還する人もいるかもしれないが、避難生活から双葉町の拠点に戻って生活することが難しい場合もある。その相談に乗ることが大事だ。避難生活を続けるためのサポートに加えて、戻ってくる人のためのサポートが必要になってくる。2つの支援に対して、町民の意見を反映していく必要がある。

2. 福島復興局 池田参事官補佐

- 意見をしっかりと受け止め、今後も町と一緒に検討したい。
- 出来ることと出来ないことはあるが、しっかりと受け止めたい。
- 他町も担当しているが、防犯や獣害・通院通学など、同じ意見をもらっている。
- 会議はひと段落するが、インフラが整っていても、最終的には町民が盛り上げていく。一緒にどう進めていくべきか一緒に考えたい。

3. 福島県 避難地域復興課 後藤副課長

- 交通については、高速の継続・公共交通フリーパスの意見が出た。難しい問題であるが、フリーパスか回数券なのか、色々な考え方があるので、町でどの程度できるのか、知恵を出したい。
- 風評被害については、情報発信は当然だが、現地に来て見てもらうことが大事だ。双葉町内だけでなく浪江町にも整備される復興祈念公園・アーカイブセンターを、2020年のオリンピックに間に合うように作りたい。安全安心をPRしたい。

- 来て見てもらうということについては、県の復興ツーリズムを前向きに考えていきたい。

4. 復興推進課 平岩課長

- 3回にわたり復興について意見をもらった。本日支援策など様々なテーマで議論いただいたので、計画に反映させていきたい。今後は復興町民委員会の場に移して継続して議論したい。
- 11月1日（火）に復興町民委員会を開催する。

5. 高野泉部会長

- ワークショップが素晴らしかったので、素晴らしい意見が出た。
- 政府方針が出され、双葉町は帰還困難区域が96%にも達するなか、避難指示解除していくということになり、5年後に帰れるのかという時に、自分自身は70歳を過ぎる。大きな問題だ。
- 自分としては、国・県・町は復興のために一生懸命頑張ってくれていると感じている。しかし、できそうにないと思われることや困難なことは、国の力で成し遂げて欲しい。そして、三者協議を行い、双葉町の計画を少しでも進めてほしい。ゼロベースで考えれば、これまでの双葉町以上のものができる可能性はある。後世にも伝えられる双葉町になるようにしてほしい。
- 町民も帰れる人、帰れない人、帰りたくても帰れない人がいると思うが、双葉町の復興を進めてほしい。

双葉町復興町民委員会 第3回人の復興部会 配席図

(敬称略)

